

地域支援センター「しせい」

第7号 地域支援センター通信【令和2年2月19日発行】

「できた!やってみたい!もっと頑張ろう!」児童生徒から、このような言葉が聞かれるように、学校は日々の授業の中で、主体的に学ぶ児童生徒を育てています。学校教育において、子どもが卒業後も意欲的に生活し、職業的・社会的に自立していく力を育むことが欠かせません。「小学部だからまだまだ先のこと。でも、不安はある。」「中学部に上がり、作業学習が始まったら、何だか大人びてきたようだ。」「いよいよ出口に差し掛かった高等部は、家庭で何をすればいいのかな。」など、保護者の方々は様々な思いをお持ちです。進路だよりと重複するかもしれませんが、今回は、ライフステージごとに先を見据えた適切な支援を行い、一人ひとりが社会の中で自分の役割を果たし、自己実現していくための「キャリア発達」、働くことへの意欲を育む「キャリア教育」について、この分野に造詣の深い本校鈴木校長よりお話をいただきます。

「自己実現のためのキャリア発達」「働くことへの意欲を育むキャリア教育」について



誰もが幼い頃に、「大きくなったら〇〇になりたい!」という夢を持っていたことと思います。昭和世代の私の周りは、男子はスポーツ選手やパイロット、女子は保母(保育士)や看護婦(看護師)、スチュワーデス(CA)などが多かったような気がします。私自身も、教員になろうとは全く思わずにいました。

小学校に入学するかしないかの頃、男子の間では「ウルトラマン」「仮面ライダー」が大流行し、あちこちで「〇〇ごっこ」が繰り広げられていました。私も多聞に漏れず、「悪と戦うヒーローになる」という、到底叶いっこない夢を見ていたものでした。

そんな私に母親は、「悪者と戦うんだったら、丈夫じゃなきゃ負けちゃうから、好き嫌いしないでご飯を食べて、病気になるようにお風呂に入って清潔にして、早寝早起きをして健康でいないとね。」と言いました。

私には2歳年下の妹がいますが、妹の夢は「看護婦になる」ことでした。ある日、母親が妹に向かってこう言っていました。「看護婦さんは病気の人のお世話をするんだから、好き嫌いしないでご飯を食べて、病気になるようにお風呂に入って清潔にして、早寝早起きをして健康でいないとね。」…あれれ?どこかで聞いた話。

要は、どんな仕事に就くにしても、基本的に大切にしなければならないことは同じだということなのですが、今にして思えば、これがまさに「キャリア教育」の原点なのかなと思います。保護者の方から「将来の進路に向けて小学部段階からやることは何ですか?」と聞かれることがありましたが、基本的な生活習慣をできるだけ身に付けておくことこそ、何よりも大切にしていきたいことです。

幼い頃の「夢」は、その後の様々な出会いや経験を通して、形を変えてゆき、いつしか「目標」に進化していきます。私もたくさんの経緯を経て、「教師」という目標にたどり着きました。ちなみに妹は初志貫徹して、今も看護師として働いています。

早い時期から目標を持って生活できる子もいれば、なかなか見つけられない子もいます。どちらも当たり前のことです。「夢を持て!」などと簡単に言うてはいけないことなのです。でも、いろいろな経験を通して考えることはしなければなりません。

人生に起こることの7割から8割は、「偶然」です。どんなに周到に計画をしても、細部で起こることは「偶然の出来事」です。私たちは、その「偶然」に何らかの刺激を受けて、今の生活を営んでいます。「人との出会い」「テレビで見たこと」「本で読んだこと」「誰かから聞いたこと」等々…そういう刺激を自分で考える材料とし、自分で選び、自分で決めて挑戦してみる。失敗を繰り返しながら、自分に合った生き方を見つけていく。子どもたちには、そういう「学び」を積み重ねて、それぞれの「豊かな生活」を実現してほしいと願っています。

(鈴木 龍也)

保護者同士がつながり合うことの大切さについて

先日、南相馬市自立支援協議会発達障がい者部会にて、「保護者同士のつながりと活動の場について」ということで、相双保健福祉事務所 主任保健技師の 山田恭子氏、福島県自閉症協会 相双部会 岡幸枝氏、障がい児者ひまわりの会、サポートぴあ手まめの会 末永とし氏より、お話をいただきました。

(山田氏より)

相双保健福祉事務所では、相談交流事業「おひさま広場」を開催しています。保護者の方の要望にお応えしながら講習会や交流相談会を実施しています。

また、平成27年、そこに参加している保護者の方で自主グループ「おひさまクラブ」が発足し、相双地域で唯一の障がい児子育てサークルです。相双保健福祉事務所が事務局となっています。

(岡氏より)

自閉症協会に所属し、県内4回、地域6~7回の親睦会やセミナー、啓発活動などを行っています。プールでの活動など、体を動かす活動では、お父さん方が活躍します。我が子が幼い頃には先輩保護者さんから励まされ、今は若い保護者の方からの相談に、実体験を基にしながら乗るようになりました。会の活動を続けてきて良かったことは、長く交流を続けてきたことで安心感をもつことができたことです。

若い保護者の方へメッセージ

- ① 小さいうちに、言うことを聞いてくれるうちに、教えられることは教えましょう。
- ② 学校や事業所にお任せしないで、同時進行でやると、2倍・3倍覚えます。
- ③ 共通の悩みを話せる仲間を作りましょう。感情を内に秘めず、外に出しましょう。



(末永氏より)

小学校入学の頃、小児自閉症と診断されましたが、治るものだと思いました。学校に入り、ずっと付き合っていくものだと知りました。ひまわりの会では、身辺自立や言葉の学習をしてもらっていました。(ひまわりの会は現在休止状態)手まめの会では、施設の除草や福祉祭りの手伝いなどしています。力仕事はお父さん方が引き受けてくれます。サマーキャンプでは、養護学校時代の保護者仲間が集まります。なるべく参加し、会をなくさないようにしたいです。

若い保護者の方へメッセージ

- ① 会に誘われたら、一度は出向いてみてください。合わなければ行かなくてもいいですし…
- ② いろんな人の意見を聞いてみるのが大切です。



上記について、関心のある方は大和田まで、お問い合わせください。また、本校の父母と教師の会で開催されている「茶話会」についても紹介してきたところです。一人で抱え込まず、先輩保護者さんに相談したり、仲間の保護者さんと共有したりする機会を利用してみてはいかがでしょうか。

文責：大和田布佐子